

1. 日 時 : 2016年8月4日(木)16:00-17:00
2. 出席者数 : 136名
3. 主な質疑内容 :

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. カセロネス鉱山の第1四半期の稼働率は7割程度で、生産量も計画比減とのことだが、その要因を教えてください。

A. 6月にあった大雪の影響が大きな要因であるが、今回は採取率の悪化という要因もある。処理した鉱石の性状が悪かったことなどによるものであり、第2四半期以降、改善していくものと見込んでいる。

Q. 石油精製マージンが7月に下落しているが、その要因は何か。

A. タイムラグと、海外マーケットの価格の下落の影響と考えている。足元のマージンは回復してきており、これから夏場の需要も増えていくので、改善していく見込みである。

*タイムラグとは、石油製品の売値とコストに時間差が発生すること。石油製品の売値は直近の原油価格が反映される一方、コストはおよそ1か月前に購入した原油価格(産油国における積み月の原油価格)が反映されるため、原油価格の変動局面においては、売値とコストに一時的な値差が生じる。

Q. 東燃ゼネラル石油との統合の進捗は予定通りか。

A. スケジュールに遅れが出ていることはない。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。